

朝日町エコミュージアムコアセンター「創遊館」

エコミュージアムルームだより



第3号

発行日 平成18年11月1日 発行 朝日町役場政策推進課 編集 NPO法人朝日町エコミュージアム協会
エコミュージアムルーム電話&FAX 0237-67-2128 エコミュージアム協会HP <http://www12.ocn.ne.jp/~a-ecom/>

エコミュージアムルーム（通称エコルーム）では、エコミュージアムの総合案内とエコミュージアムに関する調査・研究、資料収集・保存、普及などの業務を行っています。NPO法人朝日町エコミュージアム協会が朝日町より受託して運営しております。開館時間 9:00~17:00 月曜休

これからの催しと展示のお知らせ

《エコミュージアム学習会》

おらほの最上川学 朝日町五百川峡谷編（平成18年度「山形学」地域連携講座助成事業）

第5回 五百川峡谷シンポジウム（公開）

期日 11月19日（日）13:00~16:30 場所 開発センター ホール（2階） 参加無料

「おらほの最上川学 朝日町五百川峡谷編」では、これまで4回の講座で風土や歴史、自然の魅力にあふれた「最上川五百川峡谷」について見て、聞いて、体験して、最上川と住民がどのように関わってきたのかを学んできました。第5回の「五百川峡谷シンポジウム」では、五百川峡谷における特異な水質浄化力と、カヌーの魅力についてお話をいただき、これまでの連続講座で知り得たことも踏まえ、五百川峡谷と私たちのより良い未来についてパネルディスカッションを行います。参加者の皆さんからも提案をいただきます。

基調講演「五百川峡谷の水質浄化力」講師 佐藤五郎氏（米沢中央高等学校教頭）

基調報告「カヌーイストが見る五百川峡谷の魅力」報告 大井寛治氏（朝日町カヌー愛好家）

パネルディスカッション「五百川峡谷の未来を考える」



パネリスト 菅井敏夫氏（一歩会代表・朝日町観光協会顧問）

堀 茂氏（五百川峡谷案内人・鮎釣人）

庄司克史氏（SOIL W-PLAY代表）

佐藤五郎氏（米沢中央高等学校教頭）

コーディネーター 長岡信悦（NPO法人朝日町エコミュージアム協会理事長）

オプションエクスカーション 19日（日）9:30~12:30 参加協力費 2,200円（昼食代含）定員20人

「晩秋の五百川峡谷を巡る」（エコミュージアム宝紀行）

※収益は、ガイドブック「五百川峡谷」の出版費用に充てられます。ご協力をお願い致します。

五百川峡谷案内人の若月啓二氏の案内のもと、これまでの連続講座で知り得た事を振り返りながら、晩秋の五百川峡谷のビューポイントを巡ります。また、最上川唯一のダム「上郷ダム」も見学します。

「五百川峡谷鮎御膳」（味のエクスカーション）

昼食は、投網で獲った五百川峡谷の天然鮎を、和風レストラン「牡丹」様にて特別に準備していただきます。

*エクスカーションお申込先…「創遊館」エコルーム（67-2128）締切 11月12日（日）まで

ギャラリー展示 19日（日）~30日（木）9:00~19:00（月曜日は休館）「創遊館」1階ギャラリー

入館無料

「おらほの最上川~五百川峡谷~」

五百川峡谷シンポジウムに併せて、これまでの連続講座の報告と五百川峡谷に関わりのある宝パネルや映像、写真などの展示を行います。

※詳しくはちらしをご覧ください（エコルームにあります）

エコミュージアム案内の利用受付

知らない朝日町を訪ねてみませんか！「朝日町エコミュージアム案内人の会」（代表 堀敬太郎氏）では、歴史や文化、自然について、サテライト（現地見学場所）ごとの案内をしております。公民館事業や学校行事、ご家族や遊びにいらしたお客様と、郷土学習や観光に、どうぞご利用下さい。エコルームで受付しております。

（料金は、道先案内 半日コース4,000円 1日コース6,000円、サテライトによっては別途1カ所2,000円）

《パソコン宝検索システム「あさひまちの宝箱」（入力状況）》

「五百川峡谷の漁の味力」熊坂正一氏（元町）



おらほの最上川学 朝日町五百川峡谷編

最上川の荒砥～左沢間およそ25kmは、古くから「五百川峡谷」と呼ばれてきました。最上川の中で、唯一ここだけが連続する瀬を持っていますが、その流れはドラマチックな歴史を残し、私たちの生活や環境に思いがけないメリットをもたらしてきました。第三回目の最上川学では、最上川第一漁業協同組合 代表理事組合長として活躍なさっている熊坂正一氏（元町）に、五百川峡谷の漁の歴史や魅力について現地見学も交え教えていただきました。また、同組合監事の佐藤昭吉氏（本町）からは投網の実演をご披露いただきました。以下、講義の一部要約になりますがご報告いたします。

朝日町宝ファイル No. 0603 「五百川峡谷の漁の味力」

最上川で一番多かった^{やな}築

最上川全体でおよそ40カ所の築があったが、朝日町にはそのうち7カ所あった。荒砥から左沢間の五百川峡谷全体では11カ所あった。こんなにある所は他になかった。どうしてかという、激流（瀬）、岩盤、中州があるから。築の仕組み上、段差のある瀬がないと仕掛けられない。それに、中州のない所に作るには上流から長くせき止めなければならないから大変だ。

6～7月、鱒が築の仕掛けてあるその瀬の段差を上る時、水の勢いで、どつとひっくり返されて簾の上に落ちる。これが遡上する魚のとり方。下る魚、落ち鮎などは上からぞろぞろ入る。問題は、いろんな木や草などのゴミも簾にかかる。これを丁寧に落とさないと築がだめになる。

築には、必ず魚を食べさせる料亭のような場所があった。鱒の季節には鱒を、鮎の季節には鮎を、それからウナギなどもよくごちそうになった。

築は、増水で流されれば大きな損害になるが、儲かるときは儲かる。落ち鮎の季節はあまりに掛かりすぎて、手伝い人は面倒くさくなって流

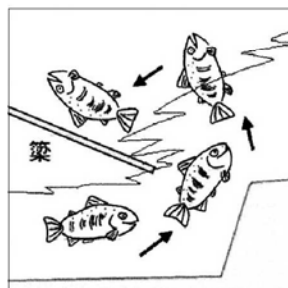


図 築の仕組み(鮎の獲り方)

してやったほど。

上郷ダム建設で築を全廃するにあたっては、240万円から3,300万円までの補償金が出た。八天築は簾座が三つもあるから、漁獲数も多かった。流し網漁

私は流し網で鮎をとっている。夕方に川の流れて沿って網を仕掛けておくと、朝方に引かかる。禁漁日まで毎日やっている。重たくて上げられないほど掛かることがある。1シーズンでおよそ4～500匹捕る。

巨鮎が育つ

五百川峡谷は巨鮎がいるので有名だ。巨鮎は150グラム以上。全長26センチ位以上。友釣りファンもそれに惹かれてやってくる。私は、最高で320グラムのをとったことがある。五百川峡谷は餌がいいから育つんだ。餌は藻、けい藻、らん藻という藻がつく。三日あったら充分つく。

増えている天然鮎

今年は天然鮎の遡上が多く、70%以上になった。それは理由がある。県内水面漁場管理委員会の指示により、毎年10月4日から10日まで、県内の全ての河川において、ありとあらゆる漁法での漁が禁止になる。築も網も釣りもだめ。親魚を早く海に下らせて産卵させて、来年の遡上に資するようにしている。我々もそれに協力している。



熊坂 正一（くまさか しょういち）氏

昭和11年生まれ。昭和35年法政大学文学部日文科卒業。
教員を経て朝日町役場に奉職後、昭和60年～平成4年まで町助役を務める。
現在、山形新興株式会社専務取締役。最上川第一漁業協同組合 代表理事組合長。

※ 詳しくまとめられた熊坂氏の講義原稿および資料は、エコルームで閲覧できます。
必要な方には複写いたします。